

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	朝霞の次代を担う人材の育成			総合計画コード	311
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード	110300
関連部課名	学校教育部(教育総務課、教育管理課、学校給食課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	児童生徒一人一人の豊かな心と人間性が育成され、たくましく生きていくための健康や体力が身についている。				
施策概要	学校での道徳教育や人権教育を推進するとともに、児童生徒の悩み等を解決するための教育相談を充実させる。 また、学校や家庭に対して食育への啓発を図り、学校と家庭が連携した食育の推進を図る。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画		計画期間	H 25 年度 ~ H 34 年度
					H 年度 ~ H 年度
					H 年度 ~ H 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー4人を市内全中学校へ配置、さわやか相談員5人、サポート相談員11人、希望する小・中学校への学生サポート6人、スチューデントサポーター2人の配置。 ・食育啓発リーフレット「あさかをたべる」、11,500枚の作成及び配付。 					
H29年度の 基本概念(コンセ プト)の実施内容	安全・安心な まち	一人一人が尊重される人間関係づくりのため、教育相談の手法をいかすことができた。				
	子育てが しやすいまち	学校と家庭がいっしょになり、児童生徒成長を見守ることができた。				
	つながりのある 元気なまち	小・中学校の連携や地域との連携の中から、多くの視点を持って児童生徒を見守ることができた。				
	自然・環境に 恵まれたまち	学校の学習環境づくりを進めることができた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度 1,239,752	H29年度(見込) 1,289,938	H30年度 —	H31年度 —	H32年度 —

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 「教育に関する3つの達成 目標」規律ある態度の達成 状況 <small>(説明) 朝霞市「教育に関する3つの達成目標」の効果 の検証における、「規律ある態度」のアンケート 結果における平均正答率</small>		小・中学校とも 全項目において 85%を上回る 86	小・中学校とも 全項目において 85%を上回る 88	小・中学校とも 全項目において 85%を上回る —	小・中学校とも 全項目において 85%を上回る —	小・中学校とも 全項目において 85%を上回る —
② <small>(説明)</small>				—	—	—

3. 施策の分析

<p>達成度 (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ○ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ○ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ● C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) ・学習準備・話を聞き発表する等、若干の課題はあるが、児童生徒の規律ある態度が、しっかりと育ってきている。 ・各学校や子ども相談室で児童生徒の相談活動を適切に行うことができた。 ・朝食の重要性について、アンケートやリーフレットを通して、広く学校や家庭に啓発した結果、毎日食べる児童生徒が93%に達している。</p>
<p>必要性 (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>○ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ● B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) ・ネット社会が広がる中で、児童生徒を取り巻く生活環境も大きく変化し、ネット上でのいじめの問題、また不登校、問題行動等が社会問題となっている。また、家庭環境も多様化し、食事の摂り方も家庭により多様化してきている。児童生徒の豊かな心を育成したり、家庭と連携した食育を推進したりすることは、今後ますます重要になってくると思われる。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) ・不登校児童生徒によっては、両親の仕事の関係等で教育相談を実施する状況を作ることができない家庭があったり、問題も複雑化したりしており、解決することが非常に困難なケースもある。また、医療機関等外部との連携が必要なケースが増えてきている。 ・子どもを取り巻く生活環境が変化し、生活の中で体を動かす機会が減少してきている。</p>

4. 今後の展開方針[部としての判断]

<p>施策の方向性</p>	<p>[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p>																																																
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p>○ I 行政の関与(役割)を拡大 ● II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○ III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) ・不登校児童生徒への対応や食育推進活動においては、家庭の協力なくしては行えないので、今後とも市民(家庭)との連携を推進する。食育については食育推進リーフレットの配付を通して啓発活動を行い、市民に今まで以上に食育の重要性を認識してもらおう。</p>																																																
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—				
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																									
	H28決算	H29決算見込																																															
1																																																	
2																																																	
3																																																	
4																																																	
5																																																	
計 (単位:千円)			—	—	—																																												
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p> <p>いじめや虐待、貧困の問題に関しては、関係部署や関係機関、学校の相談機関など、情報を持つ機関等が連携して横断的に対応してほしい。</p>																																																
<p>部長の意見</p>	<p>児童生徒の健全育成という教育の根幹にかかわる重要な施策である。学校は、教育効果のさらなる向上を目指し、広く家庭や地域との協力・連携を推進していく。また、社会福祉・医療など他機関との連絡調整を密に図り、一層、児童生徒一人一人に寄り添った施策を推進する。</p>																																																

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	朝霞の次代を担う人材の育成		総合計画コード	311
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード 110300
関連部課名	学校教育部(教育総務課、教育管理課、学校給食課)			

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
	1 教育委員会運営事業	5,585	5,528	3	3	現状のまま
	2 教育委員会事務局事務事業	4,014	3,941	3	3	現状のまま
	3 教育相談事業	32,828	35,503	4	4	現状のまま
	4 ふれあい推進事業【再掲】	—	—	4	4	現状のまま
	5 教育指導支援事業	15,547	18,840	4	4	現状のまま
	6 教職員研修事業【再掲】	—	—	4	4	現状のまま
	7 児童・生徒・教職員健康管理事業	49,939	52,486	3	3	現状のまま
	8 学校保険事業	12,323	12,470	4	4	現状のまま
	9 学校給食運営事業	932,485	953,417	4	4	縮小
	10 給食センター管理事業	158,974	165,483	4	4	現状のまま
	11 自校給食推進事業	2,254	2,254	4	4	現状のまま
	12 自校給食室管理事業	23,214	24,091	4	4	縮小
	13 給食食材放射性物質測定事業	2,589	2,613	4	4	現状のまま
	14 浜崎給食センター施設改修事業	—	13,312	4	4	現状のまま
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	1,239,752	1,289,938	—	—	—

施策を
構成する
事務事業の
次年度の
方向性

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	確かな学力と自立する力の育成			総合計画コード	312
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード	110300
関連部課名	学校教育部(教育総務課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	ティーム・ティーチングや少人数指導などによる個に応じた指導の充実、情報教育の推進、教職員研修の推進等を通して、児童並びに生徒の学力や規律ある態度の育成が図られている。				
施策概要	小学校低学年補助教員及びあさか・スクールサポーターの配置、小学校専任外国人講師及び中学校英語指導助手の配置、通常学級における障害のある児童生徒支援員の配置、コンピュータの保守・点検、研究開発学校の指定、校内研修の助成等により、教育内容の充実を図る。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度	~ H 34 年度
				H 年度	~ H 年度
				H 年度	~ H 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年補助教員を全小学校へ合計27名配置。 ・あさか・スクールサポーターを全小・中学校へ合計17名配置。 ・市内各小・中学校のコンピュータ保守・点検。 ・朝霞市教育委員会研究開発学校の指定と研究発表会の開催。 ・小学校専任外国人講師を市内全小学校の3・4年生の各学級に年間10回、5・6年生の各学級に年間35回派遣。 ・中学校英語指導助手を市内全中学校に1名配置。 ・通常学級における障害のある児童生徒支援員を市内関係各小・中学校へ3,300回派遣。 					
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	特別な指導を要する児童生徒にも適切な指導を行った。				
	子育てがしやすいまち	外国籍の子供たちの日本語指導も含め、個に応じた指導を行った。				
	つながりのある元気なまち	世界の国々のことを知るとともに、朝霞に対して故郷意識を持たせていく。				
	自然・環境に恵まれたまち	教科等や特色ある学校づくりの中で環境教育の推進した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		92,633	95,308	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 学習状況調査の達成状況 <small>(説明) 小学校6年生と中学校3年生を対象に実施される、全国学力・学習状況調査における各A問題における平均正答率</small>	%	全国平均値を上回る 朝霞市 72 全国 72	全国平均値を上回る 朝霞市 67 全国 65	全国平均値を上回る	全国平均値を上回る	全国平均値を上回る
② <small>(説明)</small>				—	—	—

3. 施策の分析

<p>達成度 (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ○ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ● B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ○ C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) 全国学力・学習状況調査における小学校6年生の国語A・B問題、算数のA問題については朝霞市が全国を上回った。しかし中学校3年生においては国語、算数ともにどちらも朝霞市は全国を上回った。問題と解答をしっかりと分析し、対策を立て計画的に学力向上に向け取り組んでいる。小学校低学年補助教員やあさか・スクールサポーター、ALTなどの人的配置は計画通り実行できており、児童生徒一人一人へのきめ細かな学習支援・生徒指導が進められているが、外国籍及び帰国児童・生徒が増えており、日本語指導支援員の必要性が年々高まっている。教職員研修に関しても研究開発学校の指定、校内研修の推進等を行い、教職員の資質向上が図られている。</p>
<p>必要性 (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>○ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ● B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) 小学校1・2年生における学習支援や生徒指導及び小学校3年生から中学校3年生までの学力向上に係る、個に応じた指導の充実を図るためには、小学校低学年補助教員やあさか・スクールサポーターなどの人的配置が不可欠であり、学校規模に応じた配置を考えると、増員の検討も必要である。一方、情報教育に係る学習環境において、インターネット環境の整備など、時代の変化に合わせた対応が必要がある。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) 小学校低学年補助教員やあさか・スクールサポーターは、年度ごとに学校規模に合わせて増減させているが、ニーズに応えられるほどの人数は確保できていない。情報教育に関しては、セキュリティの確立等をふくめ、運用面での検討が必要である。</p>

4. 今後の展開方針[部としての判断]

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明) ・あさか・スクールサポーター等の学校現場への人的配置については、学校規模に応じた適正配置をしていく。また、学校の課題解決に対応した配置となるよう、それぞれの学校の実態を事前に把握する。 ・情報教育に係る学習環境の整備・充実に関しては、児童生徒用・教職員用のコンピュータの入替を計画的に進める。</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p>○ I 行政の関与(役割)を拡大 ● II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○ III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) 朝霞で育つ子供たち一人一人のよさや可能性を伸ばすために、確かな学力の定着を図るとともに、豊かな体験活動を通して、たくましく生きる力を育む教育の実現をめざし、行政と市民の関与バランスを維持する。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—	<p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																						
	H28決算	H29決算見込																																												
1																																														
2																																														
3																																														
4																																														
5																																														
計 (単位:千円)			—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>世帯ごとの所得格差が生じているが、世帯所得と子どもの学力については相関関係があるとされている。学力に関しては、子供に限らず、青少年全般へのバックアップの議論が必要である。</p>																																													
<p>部長の意見</p>	<p>児童生徒一人一人のきめ細かな学習支援、生徒指導という点で、人的配置は定着しつつある。研究開発学校助成を活用した学校研修も盛んになり、教員の資質向上につながっている。情報教育については、環境整備とともに活用・指導面での充実が求められている。 まずは、学校における教育を充実させることで、全ての児童・生徒の確かな学力と自立する力の育成を目指す。</p>																																													

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	確かな学力と自立する力の育成		総合計画コード	312	
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード	110300
関連部課名	学校教育部(教育総務課)				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
	1 特色ある学校づくり支援事業【再掲】	-	-	4	4	現状のまま
	2 教職員研修事業【再掲】	-	-	4	4	現状のまま
	3 教育指導支援事業【再掲】	-	-	4	4	現状のまま
	4 進路学習事業	4,305	2,877	4	4	現状のまま
	5 日本語指導充実事業	3,563	2,911	5	5	拡大
	6 国際理解教育事業	43,719	44,283	4	4	拡大
	7 小学校特別支援学級事業	15,511	17,952	4	3	現状のまま
	8 中学校特別支援学級事業	7,573	9,248	4	3	現状のまま
	9 特別支援教育事業	17,962	18,037	4	4	拡大
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	92,633	95,308	—	—	—

施策を
構成する
事務事業の
次年度の
方向性

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	質の高い教育を支える教育環境の整備充実			総合計画コード	313
部名	学校教育部	主管課名	教育総務課	主管課部課コード	110100
関連部課名	学校教育部(教育管理課、教育指導課、学校給食課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	児童・生徒が通学する学校に誇りを持ち、安全で安心して学びやすい環境で学校生活を送っている。				
施策概要	研究開発学校の指定・校内研修の助成等により教職員の資質・能力の向上を図ることで質の高い教育環境の拡充に努める。今後の児童・生徒数の動向や校舎の老朽状態を把握し、施設の更新や修繕を図る。通学区域の弾力化を推進し、各中学校の魅力ある学校づくりを推進するとともに、特認校制度を生かし第五中学校の活性化を図る。給食事業の充実をめざし、自校給食室の整備を進める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度	～ H 34 年度
		朝霞市教育大綱		H 28 年度	～ H 32 年度
				H 年度	～ H 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	朝霞市研究開発学校の指定と研究発表会の開催(八小・十小・四中) 朝霞第三小学校・朝霞第三中学校ロッカー改修工事、朝霞第二小学校・朝霞第四中学校体育館屋根塗装改修工事、その他の施設改修工事の実施 朝霞第一小学校・朝霞第二小学校・朝霞第七小学校における屋内運動場空調設備設置工事の設計の実施 朝霞第二小学校校庭の一部芝生化の実施 特認校の生徒募集(申請人数37人、許可人数37人) 中学校自由選択制の実施(申請人数124人(特認校含む)、許可人数124人(特認校含む)) 朝霞第八小学校自校給食室の検討の結果、普通教室の増設に併せて準備を進めることになった。					
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	校舎等の老朽化状態を把握し、児童・生徒の安全・安心に係る施設修繕等を優先して実施した。				
	子育てがしやすいまち	教職員研修や施設修繕等により、学びやすい学校環境を充実させるための整備を実施した。				
	つながりのある元気なまち	学校応援団等、ボランティアによる支援員に地域住民の方になっていただき、協働による学校運営を実施した。				
	自然・環境に恵まれたまち	屋上緑化、壁面緑化、緑のカーテンなど環境に配慮した事業を実施した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		1,004,871	1,216,812	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 「教科等指導員」任命数		12	12	12	12	12
	(説明)経験もあり、小・中学校の教科・領域において指導のリーダーとなる知識や技能を持つ指導員	8	10	—	—	—
②						
	(説明)					

3. 施策の分析

<p>達成度 (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ○ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ● B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ○ C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) 教職員研修については研究開発学校の指定・校内研修の推進等を行い、教職員の資質向上が図られている。学校の修繕等については校舎、体育施設、屋外環境の工事等を実施し、快適で安心・安全な教育環境の整備に努めた。中学校自由選択制では124人の申請があり、通学区域の弾力化が図られている。そのうち第五中学校の特認校利用者が37人あり、活性化は十分達成している。第八小学校については、普通教室の増設に併せて自校給食室を設置するよう準備を進めることとなった。</p>
<p>必要性 (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>○ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ● B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) 教職員の資質向上のためには教職員研修が不可欠であり、引き続き必要である。学校施設の躯体耐震化、エアコン設置、トイレ設置、屋内運動場等の非構造部材安全対策工事は完了した。今後は災害時に避難所となる屋内運動場の防災機能を強化するため、空調設備設置工事の設計・工事を順次実施する。また、老朽化していく学校施設の計画的な改修・修繕についても求められているため、工事等の必要性や緊急性等を鑑み、適宜、実施する必要がある。さらに第八小学校は、児童数の増加が見込まれるため普通教室を増設するとともに食育の推進のための自校給食室を設置する必要がある。特認校制度は朝霞第五中学校の活性化のために継続する必要があり、自由選択制度は就学指定校の変更を弾力的に運用する意味合いから引き続き必要である。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) 教育環境の充実のため、限られた財源の中ではあるが、財政状況や国の施策の動向を踏まえ、児童数の推移や施設の状況を的確に把握し、必要性や緊急性に配慮しながら、計画的な改修工事等を実施していく必要がある。</p>

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明) 教職員研修は、教職員の資質向上のため、引き続き実施していく。災害時に避難所となる屋内運動場の空調設備設置工事は平成30年度から34年度にかけて3校ずつ工事を実施していく。また、将来的な普通教室不足が見込まれる第八小学校は普通教室の増設と食育推進のための自校給食室の設置を行うため、平成30年度に設計を行い、平成31・32年度で工事を実施できるよう準備を進める。老朽化の進む校舎が多いので、計画的かつ緊急性を要する箇所から順次改修、整備を実施していく。特認校制度及び中学校自由選択制度は中学校生活が充実したものになるように継続して実施していく。</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p>○ I 行政の関与(役割)を拡大 ● II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○ III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) 市民(児童・生徒)の意見を取り入れながら、教育環境の充実を推進していく必要がある。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1						2						3						4						5						計 (単位:千円)			—	—	—	<p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																						
	H28決算	H29決算見込																																												
1																																														
2																																														
3																																														
4																																														
5																																														
計 (単位:千円)			—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>【外部評価委員会】・保育園や小学校などで起こる事故の状況や原因については、連絡会議等の情報共有だけでなく、事故発生の直後に早急に市内の各現場へ周知するなど、同様の事故の再発を防ぐシステムを充実させてほしい。 (子育てがしやすいまちに関する所見より抜粋)</p>																																													
<p>部長の意見</p>	<p>教職員研修については、研究開発校を活用した学校研修が活発になっており、教職員の資質向上に繋がっているため、引き続き実施する。教育環境の整備充実のため、屋内運動場の空調設備設置を計画的に進めるとともに老朽化の進む校舎を計画的かつ緊急性を要する箇所から順次改修、整備を実施する。また、第八小学校は普通教室の増設と自校給食室を設置するための準備を進める。特認校制度及び中学校自由選択制度では各中学校が魅力ある学校づくりを進めるとともに、通学区域の弾力的運用を継続的に実施する。</p>																																													

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	質の高い教育を支える教育環境の整備充実		総合計画コード	313	
部名	学校教育部	主管課名	教育総務課	主管課部課コード	110100
関連部課名	学校教育部(教育管理課、教育指導課、学校給食課)				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
	1 教職員研修事業	16,598	17,886	4	4	現状のまま
	2 教職員配置事業	14,888	16,923	4	4	現状のまま
	3 特色ある学校づくり支援事業	-	-	4	4	現状のまま
	4 教育指導支援事業	-	-	4	4	現状のまま
	5 交通指導員配置事業	53,752	60,162	4	4	現状のまま
	6 給食センター管理事業	-	-	4	3	現状のまま
	7 自校給食推進事業	-	-	4	4	H29で休止・廃止・終了
	8 自校給食室管理事業	-	-	4	4	現状のまま
	9 給食食材放射性物質測定事業	-	-	4	4	現状のまま
	10 就学・学齢簿整備事業	4,705	4,585	4	3	現状のまま
	11 通学区域整備事業	1,394	1,395	4	3	現状のまま
	12 第五中学校活性化対策事業	17,012	17,786	4	3	現状のまま
	13 入学準備金・奨学金貸付事業	13,075	19,358	4	3	現状のまま
	14 小学校運営事業	99,358	102,159	4	3	現状のまま
	15 小学校施設管理事業	195,354	214,600	4	3	拡大
	16 小学校図書整備事業	14,794	15,318	4	3	現状のまま
	17 小学校コンピュータ整備事業	45,447	75,697	4	3	現状のまま
	18 小学校施設改修事業	51,892	80,869	4	3	拡大
	19 小学校教育振興事業	18,972	20,537	4	3	現状のまま
	20 小学校教材教具整備事業	39,650	45,755	4	3	拡大
	21 小学校教育扶助事業	51,074	51,101	4	3	現状のまま
	22 中学校運営事業	68,102	69,206	4	3	現状のまま
	23 中学校施設管理事業	117,712	189,607	4	3	拡大
	24 中学校図書整備事業	9,248	9,506	4	3	現状のまま
	25 中学校コンピュータ整備事業	24,869	45,235	4	3	現状のまま
	26 中学校施設改修事業	31,312	49,844	4	3	拡大
	27 中学校教育振興事業	26,308	24,871	4	3	現状のまま
	28 中学校教材教具整備事業	40,795	24,503	4	3	拡大
	29 中学校教育扶助事業	44,239	55,067	4	3	現状のまま
	30 学校環境衛生事業	4,321	4,842	4	3	現状のまま
	31 小学校特別支援学級事業	-	-	4	3	現状のまま
	32 中学校特別支援学級事業	-	-	4	3	現状のまま
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	1,004,871	1,216,812	—	—	—

施策を
構成する
事務事業の
次年度の
方向性

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	学校・家庭・地域が連携した教育の推進			総合計画コード	314
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード	110300
関連部課名	生涯学習部(生涯学習・スポーツ課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	学校において地域の人材が教育活動に関わることで、地域に根ざした特色ある学校づくりが推進されている。また、地域における奉仕活動・体験活動・防犯活動等を推進することにより、地域で子どもを育てる意識が醸成され、地域の教育力が活性化している。				
施策概要	各学校における特色ある学校づくりを推進するため、支援員として地域の人材を活用する。また、中学校区における学校・家庭・地域のふれあい活動を推進する。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画		計画期間	H 25 年度 ~ H 34 年度
					H 年度 ~ H 年度
					H 年度 ~ H 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校において、地域の様々な分野の専門的な知識や技能を有する市民を、支援員として授業や部活動、教育環境整備等に活用した。 ・学校評議員を校長の推薦に基づき、各学校5名委嘱した。 ・関係各団体代表者及び中学校区事務局長等で推進委員会を開催するとともに、各中学校区を単位とした実行委員会を組織し、地域の実態に応じたふれあい活動を企画、実施した。(全中学校区で実施) ・家庭教育学級合同講演会を実施した。また、嘉永教育学級報告集を作成し、学級生等に配布することで、取組内容を周知した。 					
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	地域の方々の多くの目を通して、子供たちの成長を見守る活動を行った。				
	子育てがしやすいまち	家庭教育学級等を含め、家庭と学校の協力を推進した。				
	つながりのある元気なまち	地域に根ざした学校を目指し、フェスティバルや音楽を通して広く交流活動を行った。				
	自然・環境に恵まれたまち	特色ある学校づくりとして花を育てる学校が複数あった。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		88,744	92,242	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 学校応援団の活動人数 (説明) 市内各小・中学校で1年間に活動した学校応援団の総人数	人	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		3,240	3,100	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) 各学校における特色ある学校づくりが、それぞれの学校の実態を踏まえて進められている。また、ふれあい推進事業も、各中学校区実行委員会の計画に従って順調に進められている。取組内容が充実してきている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) 各学校における特色ある学校づくりが、それぞれの学校の実態を踏まえて進められているが、今後より一層ニーズが増えていくと考えられ、学校・家庭・地域がより一体となった活動を推進していく。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 特色ある学校づくり支援事業では、数値に表れない学校応援団等、ボランティアによる支援員の活用が進められている学校もある。今後、社会に開かれた学校づくりという面でも、ボランティアによる特色ある学校づくりの推進について研究していく必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) 事業としての取組を継続して推進していくと同時に、ボランティアの活用を含めた内容の充実を図る。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) ふれあい推進事業など、すでに市民参加による活動が定着してきている。また、特色ある学校づくり支援事業においても、地域住民の協力が増えてきている。今後も学校・家庭・地域そして行政が連携を図りつつ事業の充実を図る。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計 (単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	なし					
部長の意見	全中学校区において、ふれあい推進事業が実施され、創意・工夫ある取組が地域の行事として根付いてきている。今後も各中学校区における事業内容について、工夫を重ねていく必要がある。一方、学校・家庭・地域の連携を図るためには、一層開かれた学校づくりが求められている。学校において地域の教育力を生かすとともに、学校を核とした活動を展開し、学校・地域、双方の連携強化につなげられるような施策の充実を図りたい。ふれあい推進事業と音楽活動事業、いずれも児童生徒の豊かな心をはぐむ意味合いから不可欠な事業である。					

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	学校・家庭・地域が連携した教育の推進		総合計画コード	314
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード 110300
関連部課名	生涯学習部(生涯学習・スポーツ課)			

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1	ふれあい推進事業	6,490	12,595	4	4	現状のまま
2	特色ある学校づくり支援事業	67,731	68,337	4	4	現状のまま
3	音楽活動事業	10,452	7,073	5	5	現状のまま
4	家庭教育推進事業	4,071	4,237	3	3	現状のまま
5	学校開放講座開設事業【再掲】	—	—	3	3	H29で休止・廃止・終了
6	放課後子ども教室事業【再掲】	—	—	3	3	現状のまま
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
	計 (単位:千円)	88,744	92,242	—	—	—

施策を
構成する
事務事業の
次年度の
方向性

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	生涯学習推進体制の推進			総合計画コード	321
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	1201001
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	市民の学習ニーズに応えた学習や学習情報の提供及び活動の充実が図られ、いつでも、どこでも、誰でもが学べる生涯学習環境が整っている。また、市民による自主的な活動が活発に行われるとともに、学習の中心となる人材の育成と活用が図られている。				
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員会会議、生涯学習推進会議等を開催する。 ・第3次朝霞市生涯学習計画に基づき、生涯学習の推進を図る。 ・生涯学習ガイドブック「コンパス」の発行など、生涯学習情報を提供する。 ・生涯学習に関する講座等を企画、運営する団体に補助金を交付し、活動を支援する。 				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度	~ H 34 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度	~ H 38 年度
				H 年度	~ H 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員会会議を3回、生涯学習推進会議を2回開催し、第3次生涯学習計画の進捗状況を測るために第3次朝霞市生涯学習計画実施計画の策定を行った。また、社会教育委員会会議を活用し、第2次生涯学習計画後期基本計画の進行管理を行った。 ・市民企画講座(1,170人)、生涯学習体験教室(890人)、家庭教育学級などの各種事業を実施し、生涯学習の啓発に努めた。 ・子ども大学あさか(1,165人)、放課後子ども教室等(1,650人)、親子陶芸教室(70人)等を地域の資源を活用しながら開催し、次代を担う子どもたちの育成に努めた。 <p>()の数値は、各事業の延べ参加人数。</p>					
H29年度の 基本概念(コンセ プト)の実施内容	安全・安心な まち	家庭教育学級や市民企画講座などで、防犯や防災をテーマに学習した。				
	子育てが しやすいまち	子ども大学あさかや放課後子ども教室を開催し、子どもたちの安心・安全な居場所づくりに努めた。				
	つながりのある 元気なまち	様々な生涯学習事業を展開し、市民の学びのネットワークづくりに努めた。				
	自然・環境に 恵まれたまち	市民企画講座や子ども大学で、郷土朝霞について考えるとともに、朝霞市の歴史・文化や自然に親しむ事業を実施した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		37,155	40,109	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 生涯学習事業における満足度 (説明) 生涯学習に係る各種自主事業における満足度	%	92.0	92.5	93.0	93.5	94.0
		92.9	93.6	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input checked="" type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) 社会教育委員会議等を活用し、第3次朝霞市生涯学習計画に基づく実施計画を策定した。 市民企画講座、生涯学習体験教室等の事業は、市民との協働で住民ニーズに沿った企画が実施でき、事業における満足度は概ね目標を達成した。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) 自由時間の増大などの社会変化に伴い、心の豊かさや生きがいのための学習需要が増大しており、これらの学習需要にこたえるための生涯学習の基盤を整備することは、学習者の自己実現のみならず、地域社会の活性化、高齢者の社会参加・青少年の健全育成など、地域全体の教育力の向上に必要不可欠である。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 第3次朝霞市生涯学習計画策定の際に実施した市民アンケートにおいて、「1年間に生涯学習活動を行った市民の割合」は前回調査に比べ1.6ポイント低下している。第3次計画では、前述の割合を40%以上とすることを指標と位置づけているので、施策を実施していく際にはいかにしてこの数値を上げる方策を立案するかが課題である。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) 平成29年度を初年度とする第3次朝霞市生涯学習計画の基本理念「一人一人が心豊かに ともに学び 生きるまち あさか」に基づき、①いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができる生涯学習社会の実現、②人と人をつなぐ生涯学習社会の実現、③知の循環型社会の実現を目指し、各種生涯学習施策を推進していく。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) 第3次生涯学習計画では、生涯学習を進める上での基本方針の一つに「市民の主体性の尊重と協働による役割分担」と掲げ、生涯学習は学習者(市民)の自発的な意思で行うことが基本となり、行政は市民の主体的な学習行為を尊重し、サポートしていくとしている。市は、ニーズに応じた学習環境の整備に努め、市民の学びの支援を行っていく。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計 (単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)						
部長の意見	現在においては、市民が自身の生活課題のみならず、地域に山積する課題についても自らのこととして捉え、学習を通じて地域社会に参画し活躍することが期待されている。これからの学習者は、生涯学習の成果として、住民同士で教えあい、学び合えるよう活躍していただく。行政としては、この考えのもと、生涯学習体験教室などの事業で「知の循環」を進めていくことが必要である。					

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	生涯学習推進体制の推進			総合計画コード	321
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	1201001
関連部課名					

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
1	生涯学習啓発推進事業	16,955	19,335	3	3	現状のまま
2	成人式事業	6,164	6,717	3	3	現状のまま
3	人権教育振興事業	4,977	4,569	3	3	現状のまま
4	学校開放講座開設事業	2,179	1,928	3	3	H29で休止・廃止・終了
5	放課後子ども教室事業	6,880	7,560	3	3	現状のまま
6	家庭教育推進事業	-	-	3	3	現状のまま
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
	計 (単位:千円)	37,155	40,109	—	—	—

施策を
構成する
事務事業の
次年度の
方向性

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	学習しやすい環境整備の充実(公民館)		総合計画コード	322	
部名	生涯学習部	主管課名	中央公民館	主管課部課コード	120300
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	「いつでも」、「どこでも」、「誰でも」が学べる施設運営が図られ、市民ニーズに応じた学習、文化活動が充実することにより、市民は教養や健康の維持向上を図る機会を享受し、豊かな社会生活を営んでいる。			
施策概要	社会教育団体の活動に適切な支援を行うとともに、公民館運営に利用者の声を反映しサービスを充実する。 また、計画的に施設修繕を実施し、誰でもが快適に利用できる施設管理を行う。			
個別計画 関連計画	計画名称	第3次生涯学習計画	計画期間	H 29 年度 ~ H 38 年度
		第3次生涯学習計画実施計画		H 29 年度 ~ H 31 年度
				H 年度 ~ H 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全館の利用者数は約303,000人となり、多くの社会教育関係団体が利用し様々な学習活動が行われた。 ・公民館まつりでは、全館で延べ約17,000人の来場があり、日頃の活動の成果を発表することや、団体間、地域の方々との交流の場として充実した開催となった。 ・さわやか健康教室と題した新規の講座を開始するなど、市民のニーズを意識しながら全館で延べ163回の講座・教室を開催し、市民の学びの環境づくりと生涯学習活動へのきっかけづくりに取り組みました。 ・各館の設備・機器の緊急修繕を実施したほか、安全・安心な施設を目指し施設維持管理マニュアルに基づき自主点検を全館で行った。 					
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	安全安心な施設利用のため、保守点検や修繕を実施した。				
	子育てがしやすいまち	親子で参加する講座や子どもを対象とした事業を実施した。				
	つながりのある元気なまち	各種サークル等が活発に活動できるよう公民館の運営を行った。				
	自然・環境に恵まれたまち	照明設備をLEDに更新するなど、省エネルギー対策を推進した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		245,443	231,872	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 公民館6館の年間利用率 (貸館)	%	68.7	68.8	68.9	69.0	69.0
		(説明) 利用回数÷(開館日数×部屋数×3(時間区分)) ※6館の利用率の平均値	68.6	68.6	—	—
② 利用人数	人	310,000	311,500	312,000	312,500	313,000
		(説明) 公民館6館の年間延べ利用人数	306,945	303,000	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) 年間利用率は前年と同水準で推移しているが、利用人数は利用団体の会員数の減少に連動する形で微減となった。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) 公民館は、地域の生涯学習の拠点として、子どもから高齢者までが学ぶことができる環境や地域コミュニティの活性化などが求められている。今後も社会的背景の変化に伴い学習形態の変化などが考えられるが、さらなる生涯学習活動の推進が必要となる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 少子高齢化などから社会教育団体等の活動形態や状況の変化が考えられるので、利用者の意見などを聞いて、活動状況やニーズを分析し把握することが課題である。また、施設の老朽化が進んでいるため、適切な修繕等を計画的に進めていく必要がある。

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) 公民館は、現代的・社会的課題に対応した事業を実施し、子どもから高齢者までが学ぶことができる環境や地域コミュニティの活性化など果たす方向性が必要である。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) 主催事業や施設管理については、行政が主体となって取り組む一方で、地域づくりやコミュニティ推進のコーディネーター役となり、市民とともに一層の連携を図っていき、さらには、利用団体からの講師活用や生涯学習ボランティアバンクの利用を行うなど、引き続き市民との協働を図っていく。また、公民館運営審議会などにおいて利用者の意見を伺い、運営に反映させていく。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計 (単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	・各館で実施した講座・教室の内容に関して、定例で継続的に行うものと、時代の要請や市民のニーズに合わせたものをバランスよく取り入れてほしい。 ・若年層の利用者を増やす取り組みをしてほしい。 (公民館運営審議会)					
部長の意見	公民館は市民の主体的な生涯学習活動の場であるが、今後は地域の課題に寄り添い、地域住民が学習を通して市民意識を高めたり、住民間の絆を深められるような学習プログラムの展開も地域づくりコミュニティづくりの視点において重要になってくる。今後はこのような考え方も併せ持ち、公民館での生涯学習活動をサポートしていく。					

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	学習しやすい環境整備の充実(公民館)		総合計画コード	322
部名	生涯学習部	主管課名	中央公民館	主管課部課コード
関連部課名				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
	1 中央公民館運営事業	28,791	25,074	3	3	現状のまま
	2 東朝霞公民館運営事業	17,067	17,005	3	3	現状のまま
	3 西朝霞公民館運営事業	18,262	18,400	3	3	現状のまま
	4 南朝霞公民館運営事業	17,354	16,477	3	3	現状のまま
	5 北朝霞公民館運営事業	17,369	17,401	3	3	現状のまま
	6 内間木公民館運営事業	11,697	12,029	3	3	現状のまま
	7 中央公民館管理事業	43,012	51,095	3	3	現状のまま
	8 東朝霞公民館管理事業	15,172	13,633	3	3	現状のまま
	9 西朝霞公民館管理事業	12,140	13,287	3	3	現状のまま
	10 南朝霞公民館管理事業	12,538	14,964	3	3	現状のまま
	11 北朝霞公民館管理事業	16,571	12,461	3	3	現状のまま
	12 内間木公民館管理事業	21,885	20,046	3	3	現状のまま
	13 公民館施設改修事業	13,585	—	—	—	
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	245,443	231,872	—	—	—

施策を
構成する
事務事業の
次年度の
方向性

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	学習しやすい環境整備の充実(図書館)		総合計画コード	323	
部名	生涯学習部	主管課名	図書館	主管課部課コード	120400
関連部課名	生涯学習・スポーツ課、中央公民館				

1. 施策概要

めざす目的成果	全ての市民が利用しやすく、自らが学ぶための施設及び情報提供するための施設として、図書館サービスが提供されている。また、良好な施設管理が行われていることから、誰でも快適に利用できている。			
施策概要	ニーズの把握に努め、計画的な蔵書管理や資料・情報提供サービス、事業・講座の実施により、利用者に応じた図書館サービスを提供する。また、計画的に施設修繕を実施し、誰もが快適に利用できる施設管理を行なう。			
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~ H 34 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度 ~ H 38 年度
		第2次朝霞市立図書館サービス基本計画		H 28 年度 ~ H 32 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<p>管理委託業務、契約業務を実施した。要修繕箇所については、契約事務及び施工監理により修繕を実施した。また、施設・設備点検の結果、要修繕箇所については随時修繕を実施した。その他、館運営に伴う土地、機器等の賃貸借契約を行なった。なお、補正予算により、機器老朽化等により、消防設備の交換修繕を実施した。</p> <p>図書館サービス計画に基づき、図書館資料の選定から保存・廃棄までの管理、図書館資料の貸出の利用促進、障害者に対するサービスを実施するとともに、図書館まつりや各事業を実施した。市制施行50周年・図書館開館30周年を記念した記念事業を実施した。 図書館協議会を開催した。</p> <p>図書館システムの管理、統計等の作成等を行なった。 第2次朝霞市子ども読書活動推進計画にもとづき、朝霞市子ども読書活動推進連絡会を定期開催した。</p>					
H29年度の 基本概念(コンセプト) の実施内容	安全・安心なまち	来館者が安全で快適に施設利用ができるよう、施設の維持管理を実施した。				
	子育てがしやすいまち	子どもの読書活動の推進が図れるよう、幼児、児童の図書の実質や事業を実施した。				
	つながりのある元気なまち	学習しやすい環境整備を図るため、適切に施設の維持管理を実施した。				
	自然・環境に恵まれたまち	省エネ、省資源に配慮した施設管理・運営を実施した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		241,294	228,949	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	後期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 図書館等利用者数 (説明) 図書館本館、北朝霞分館、公民館図書室の年間延べ利用者数	人	281,000	282,000	283,000	284,000	285,000
		277,509	269,847	—	—	—
② 利用者満足度 (説明) 図書館本館・北朝霞分館への来館者に実施した満足度アンケート結果	%	90以上	90以上	90以上	90以上	90以上
		84.1	83.9	—	—	—

3. 施策の分析

<p>達成度 (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ○D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ○B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ●C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) 本年度は、図書購入費減額もあり、図書館等利用者数を目標を達成することができなかった。資料提供については、利用者に適切な資料が提供できるよう、必要な図書を選書するとともに、他市町村の相互貸借を利用して、利用者に資料提供することができた。 実施事業・館内利用者アンケートにより集計した利用者満足度は83.9%で、目標を達成することができなかったが、高い評価をいただいている。館運営においては、日常的に利用者の意見・要望を館運営に反映させることにより、図書館サービスの向上や快適な図書館環境を提供できた。</p>
<p>必要性 (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>○A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ●B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) 近年、利用者数、貸出冊数の微減傾向にある。このような状況を正しく把握し、第2次朝霞市図書館サービス基本計画に基づいた取組を適切に実施し、利用者サービスを提供していく必要がある。また、平成29年度から開始した第2次朝霞市子ども読書活動推進計画では、計画に基づいた取組をとおり、計画目標を達成できるよう、子どもの読書活動が推進できるよう図っていく必要がある。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) ・建設後30年を経過していることから、引き続き適切な施設の維持管理を行なっていく必要がある。 ・限られた予算のなかで、大幅な予算増が見込むことは困難で、利用者数、貸出冊数を増加させていく資料提供や図書館サービスを提供していく必要がある。 ・時代の変化や電子図書の普及等、図書の利用状況にも変化が見られるようになってきている。これらの状況を踏まえ、図書館サービスのあり方を考えていく必要がある。</p>

4. 今後の展開方針[部としての判断]

<p>施策の方向性</p>	<p>[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明) 利用者ニーズや他の図書館のサービス状況、図書や情報資源の利用状況の変化等を踏まえ、見直しにより、市民に適切な情報提供ができるようにしていく。</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p>○I 行政の関与(役割)を拡大 ●II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) 施設管理維持及び施設運営は、行政が主体して実施する。主催事業は、アンケートなどにより市民の声を反映しながら実施する。図書館まつりやらいぶらりコンサート等の市民との協働により実施している事業は、今後も実施していく。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 図書館運営事業</td> <td>136,406</td> <td>135,477</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>2 図書館北朝霞分館運営事業</td> <td>64,980</td> <td>56,572</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>3 図書館管理事業</td> <td>36,912</td> <td>34,292</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>4 図書館北朝霞分館管理事業</td> <td>2,996</td> <td>2,608</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>241,294</td> <td>228,949</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 図書館運営事業	136,406	135,477	4	4	拡大	2 図書館北朝霞分館運営事業	64,980	56,572	4	4	拡大	3 図書館管理事業	36,912	34,292	4	4	拡大	4 図書館北朝霞分館管理事業	2,996	2,608	3	3	現状のまま	5						計 (単位:千円)	241,294	228,949	—	—	—	<p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																						
	H28決算	H29決算見込																																												
1 図書館運営事業	136,406	135,477	4	4	拡大																																									
2 図書館北朝霞分館運営事業	64,980	56,572	4	4	拡大																																									
3 図書館管理事業	36,912	34,292	4	4	拡大																																									
4 図書館北朝霞分館管理事業	2,996	2,608	3	3	現状のまま																																									
5																																														
計 (単位:千円)	241,294	228,949	—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>図書館協議会において、平成29年度事業実施報告(中間)、平成30年度事業予定について報告・説明を行った。報告内容、今後の予定などを含め、事業内容について了承をいただいた。</p>																																													
<p>部長の意見</p>	<p>電子図書の普及やインターネット普及等により情報入手方法も多様になる中、出版物減少や読書離れなど、図書館を囲む環境も急激に変化している。こうした状況が図書利用のあり方にも波及し、利用者数、貸出冊数の減少という図書館利用状況にも影響していると考えられる。これらの状況を踏まえ、現在の図書館サービスのあり方の見直し等についても調査・研究して、社会状況に応じた適切な図書館運営・サービスが行えるよう心がけていく。</p>																																													

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	学習しやすい環境整備の充実(博物館)			総合計画コード	324
部名	生涯学習部	主管課名	文化財課	主管課部課コード	120500
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	博物館は生涯学習活動拠点の教育施設として、郷土の歴史に触れあうとともに学習活動に活用されている。また、環境整備に努め、利用者が安全・安心に利用できている。				
施策概要	収集方針に基づいた郷土の様々な歴史的資料を、収集・保存し活用を図る。また安全・安心して利用できるように施設管理に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度	～ H 34 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画後期基本計画		H 29 年度	～ H 38 年度
				H 年度	～ H 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	博物館運営事業 常設展示に加え、市制施行50周年記念展「アート×朝霞 丸沼芸術の森U50作家たちによる」に加え、第32回企画展「装飾壺からみた弥生時代の朝霞」、テーマ展「しらべてみよう！旧高橋家住宅～茅ぶきの古民家といきものたち～」朝霞市県展作品展「みんなあーちすと～かお・かお・かお～」朝霞市市制施行50周年記念写真展「むかしのあさはこんなだった」などを開催。体験講座は、夏休み体験教室4回、博物館体験教室5回、講座講演会については、古文書講座6回、歴史講座3回を開催。博学連携事業は、小学校1年生国語科の関連で糸車体験、3年生社会科において博物館利用事業を実施した。 博物館管理事業 館内各所の保守点検及び修繕を実施した。また、空調については、平成28年度からの改修工事を実施した。					
H29年度の 基本概念(コンセプト) の実施内容	安全・安心なまち	来館者が安全に利用し、資料の適正な保管ができる施設管理				
	子育てがしやすいまち	家族で参加できる体験学習の実施と学校団体の受入れの充実				
	つながりのある元気なまち	各種展示や教育普及事業による生涯学習機会の提供により、市民の交流を促進する				
	自然・環境に恵まれたまち	市内の歴史や文化、自然環境を調査研究し、展示や教育普及を通じて市民の学習機会を提供する				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		110,716	105,735	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 博物館入館者数		52,300	52,600	52,900	53,200	53,500
	(説明) 博物館に見学に来た人や講座などに参加した人の数	49,819	39,495	—	—	—
②						
	(説明)			—	—	—

3. 施策の分析

<p>達成度 (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ○ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ○ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ● C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) 4月の開館日数が空調工事のため前年比18日間ほど短く、来館者数の減少につながった。また、夏季の長雨や冬季の低気温による影響も少なからずあるものと思われる。 また、今回の第32回企画展においては、学術的には高い評価を得、学芸員の研究実績の一つとしてあげられる。 各講座、講演会についても各回とも定員一杯の状態であり、市民の需要には応えられているものと考えられる。</p>
<p>必要性 (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>○ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ● B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) 住民の人口移動が大きい朝霞市において、新しく朝霞市へと転入された方にとって、地域の歴史、文化を知りたいという方は多く、博物館のニーズは高まっているといえる。また、高齢者の中で、古文書学習などの需要が高まっており、生涯学習として博物館が実施する専門的な講座・講演会も需要があるものと考えられる。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) 博物館の事業運営には、歴史、考古、民俗、美術などの各専門分野の学芸員が必要であり、専門職の継続配置が必須である。 また、今年度の企画展に見られるように、研究実績としては大きな成果をあげているが、来館者の増加には結びつかなかった。入館者数そのもので展示を評価するものではないが、さらに内容を読み砕き、一般の方にも親しみやすいものにしていく工夫が必要であり、専門性とのバランスにも配慮していく必要がある。</p>

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明) 引き続き、調査研究に基づいた展示や講座、講演会を開催していく。また、多様な体験学習を実施、幅広い市民の層に博物館へ足を運んでいただき、博物館の周知に努める。 施設については、建築後20年を経過しているため、老朽化見え始めている。予算を弾力的に運営するなど、建物の修繕をに対応していく。</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p>○ I 行政の関与(役割)を拡大 ● II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○ III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) 古文書の解説について、市民との協働で実施している部分があるので、引き続き継続して行っていく。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 博物館運営事業</td> <td>44,220</td> <td>45,581</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 博物館管理事業</td> <td>36,655</td> <td>34,243</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3 博物館施設改修事業</td> <td>29,841</td> <td>25,911</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>110,716</td> <td>105,735</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 博物館運営事業	44,220	45,581	4	4	現状のまま	2 博物館管理事業	36,655	34,243	4	4	現状のまま	3 博物館施設改修事業	29,841	25,911	4	4	拡大	4						5						計 (単位:千円)	110,716	105,735	—	—	—	<p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																						
	H28決算	H29決算見込																																												
1 博物館運営事業	44,220	45,581	4	4	現状のまま																																									
2 博物館管理事業	36,655	34,243	4	4	現状のまま																																									
3 博物館施設改修事業	29,841	25,911	4	4	拡大																																									
4																																														
5																																														
計 (単位:千円)	110,716	105,735	—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>夏季に実施している「みんなあーちすと」のような、子どもたちが自己の感性を表現できるような講座は継続するべき。 古文書講座から発生した市民の団体と博物館が連携し、史料集などを作成していることは評価できる。</p>																																													
<p>部長の意見</p>	<p>平成29年度に実施した企画展に加え、市制50周年記念展、記念写真展はいずれも好評を博した。今後も、郷土の歴史と今暮らしている市民を結びつけるような博物館事業の展開に努める。</p>																																													

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進			総合計画コード	331
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	120100
関連部課名	政策企画課				

1. 施策概要

めざす目的成果	誰でも いつでも どこでも楽しめる生涯スポーツ社会の実現が図られ、市民が日々スポーツ・レクリエーションに親しんでいる。また、東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、スポーツ・レクリエーション事業を充実することにより、オリンピックに向けた機運が高まっている。				
施策概要	朝霞市スポーツ推進審議会及び朝霞市スポーツ推進委員会議の開催、学校体育施設開放事業、スポーツ教室やスポーツ大会等の開催、スポーツ・レクリエーション指導者育成講習会の開催、チラシやホームページを活用しスポーツに関する情報発信業務、事務等を行う。				
個別計画関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度	～ H 34 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度	～ H 38 年度
		朝霞市スポーツ推進計画		H 23 年度	～ H 32 年度

2. 実施結果

H29年度の施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進審議会、スポーツ推進委員会議を開催し、スポーツアンケートの結果や実施事業等を検証しつつ、市民のスポーツ・レクリエーションの推進方策について検討した。 ・市民総合体育大会実行委員会及び体育協会に補助金を支出し、体育協会と協働し市民総合体育大会(市民体育祭、種目別大会)を開催した。 ・市民体育振興奨励補助金及び青少年スポーツ振興補助金を支出し、市民のスポーツ・レクリエーションの振興に努めた。 ・各種スポーツ事業を開催し、市民の体力・健康の増進に努めたほか、都市間交流事業として越生町との交流事業を実施した。 ・オリンピック・パラリンピック準備室と連携し、ビームライフル体験教室、元オリンピックを招いてのスポーツ教室など、オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成に努めた。 					
H29年度の基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	スポーツ事業を実施するに当たっては、高齢者や障害者にも参加できるよう配慮した。				
	子育てがしやすいまち	子どもや子育て中の母親に対する事業を実施した。				
	つながりのある元気なまち	市民総合体育大会市民体育祭の開催に際しては、自治会・町内会等に働きかけ、地域間交流・世代間交流に努めた。				
	自然・環境に恵まれたまち	ウォークラリー大会のコース選定に当たっては、朝霞の歴史、風景などを題材とすることに努めた。				
総コスト(事業費+人件費)	単位:千円(決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		39,623	42,462	—	—	—

指標名(説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 週1回以上スポーツを行っている人の割合 (説明) 週1回以上スポーツを行っている人の割合	%	51.0	—	53.0	—	55.0
		48.1	—	—	—	—
② (説明)						

3. 施策の分析

<p>達成度 (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ○ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input checked="" type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) ・市民総合体育大会市民体育祭は、3年振りの開催となり、17地区の参加を得て、盛大に開催することができた。 ・ロードレース大会は、雨天のため中止となり、今後の大会運営の在り方に関して課題となった。 ・オリパラ事業については、準備室と連携し各種事業を実施し、一定程度の参加者を得て、2020大会に向けての機運は高まっている。</p>
<p>必要性 (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>○ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) ・近年、特に子どもの運動能力の低下が指摘されていることによる体力面・健康面での効果に加え、労働時間が短縮されたことや人間の寿命が延びていることにより余暇が増加していることもスポーツ需要を押し上げ、スポーツに対する期待が高まっている。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) ・今後の市財政を取り巻く状況は依然として厳しいものがあり、スポーツ施設の増設は当面望めないため、既存の施設を最大限に活用し、いかにしてスポーツ実施率を上げていくことが課題である。</p>

4. 今後の展開方針[部としての判断]

<p>施策の方向性</p>	<p>[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明) 行政ができることには限りがあるので、引き続き体育協会等と連携を密にし、効果的な施策を実施することが必要である。また、指定管理者である朝霞市文化・スポーツ振興公社とも連携し、実施する事業の住み分けを図るなど、効率的・効果的なスポーツ事業を展開する。</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p><input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) ・市民総合体育大会の運営に当っては、大会を協働で主管している体育協会や自治会連合会と意見交換を密にして実施する。 ・スポーツ施策を実施するに際しては、隔年で実施している市民アンケートや事業ごとに聴取しているアンケートの結果を踏まえ内容の見直し等について検討していく。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 スポーツ振興事業</td> <td>22,934</td> <td>23,956</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 オリンピック・パラリンピック事業</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>3 スポーツ団体等補助事業</td> <td>16,689</td> <td>18,506</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計 (単位:千円)</td> <td>39,623</td> <td>42,462</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	1 スポーツ振興事業	22,934	23,956	3	3	現状のまま	2 オリンピック・パラリンピック事業	-	-	4	4	拡大	3 スポーツ団体等補助事業	16,689	18,506	3	3	現状のまま	4						5						計 (単位:千円)	39,623	42,462	—	—	—	<p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																						
	H28決算	H29決算見込																																												
1 スポーツ振興事業	22,934	23,956	3	3	現状のまま																																									
2 オリンピック・パラリンピック事業	-	-	4	4	拡大																																									
3 スポーツ団体等補助事業	16,689	18,506	3	3	現状のまま																																									
4																																														
5																																														
計 (単位:千円)	39,623	42,462	—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>																																														
<p>部長の意見</p>	<p>2020年東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成事業について、射撃関係はもとより、地元のオリンピックなどを招致しての活動など、一定の評価ができる。また、各種事業も概ね順調に進めることができている。今後も、2020まではオリ・パラに焦点を絞り、事業を進めていく。 市民のスポーツ実施率の向上については、ニュースポーツの紹介や、手軽に出来るウォーキングなどを推奨し、市民スポーツの活性化を図っていく。</p>																																													

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	スポーツ施設の整備充実			総合計画コード	332
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	120100
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	スポーツ施設の修繕や大規模改修を計画的に実施することにより、ユニバーサルデザイン等を考慮した、安心して利用できる施設・設備が整っている。また、利用者の声を反映した施設の良好な管理・運営がされている。				
施策概要	施設の整備として、各体育施設の修繕、大規模改修を計画的に進める。 施設運営としては、予約管理システムの適切な運用と施設の管理体制の効率化や計画的な維持管理を行う。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度	～ H 34 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度	～ H 38 年度
		朝霞市スポーツ推進計画		H 23 年度	～ H 32 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社会体育施設(総合体育館、武道館、滝の根テニスコート)及び公園体育施設の指定管理を実施した。 ・総合体育館大規模改修については、継続費の補正を行い、事業年度を29年度から32年度に変更したほか、29年度は設計業務を滞りなく実施した。 ・溝沼子どもプールの維持管理を実施した。 					
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	施設管理に当っては、指定管理者と連携し、誰もが使いやすい施設となるよう配慮したほか、総合体育館大規模改修の予算化の際には、非構造部材の耐震化やエレベーターの設置などに配慮した。				
	子育てがしやすいまち	指定管理者と連携し、幼児から小中学生まで幅広い層を対象とした事業を実施した。				
	つながりのある元気なまち	スポーツ・レクリエーションを通じた地域コミュニケーションの場となる体育施設の管理運営を指定管理により実施した。				
	自然・環境に恵まれたまち	指定管理者と連携し、施設にグリーンカーテンや草花の植栽、プランター等を設置し、緑に触れる機会や自然環境に配慮した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度 188,232	H29年度(見込) 292,614	H30年度 —	H31年度 —	H32年度 —

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 体育施設(14施設)の利用率	%	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0
(説明) 体育施設(14施設)の年間利用率		58.5	58.8	—	—	—
② (説明)				—	—	—

3. 施策の分析

<p>達成度 (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ○ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ○ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ● C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) ・各施設とも、施設管理公社と連携を密にし、施設の維持管理に努めたことにより、大きな事故もなく、快適なスポーツ・レクリエーション環境の維持ができた。 ・総合体育館大規模改修事業は、利用者の利便性等を考慮した結果、関係課と協議を行い事業年度を29・30年度の2カ年から29年度から32年度までの4カ年に変更した。また、29年度事業である設計業務は滞りなく行うことができた。</p>
<p>必要性 (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>○ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ● B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) スポーツ推進計画の目標である「20歳以上の市民の週1回以上のスポーツ実施率を55%以上とする」を達成することにより、スポーツ施設の利用度は必然的に上がることから、スポーツ施設の維持管理の必要性は上がる。そのことから、今後も、計画的に施設の改修・修繕を計画的に実施する必要がある。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) ・限られた資源と財政状況の中、15施設の計画的な改修・修繕を行っていくことが課題である。 ・平成29年度から始まった総合体育館大規模改修に際しては、休場期間の大会・事業等について、市内の限られた資源を有効に活用し、利用者に混乱なく使用していただけるかを今後も検討することが必要である。</p>

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明) 施設管理公社と協働し、定期的に施設の点検及び情報交換を行い、計画的に施設の改修・修繕に努める。</p>																																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p>○ I 行政の関与(役割)を拡大 ● II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○ III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) 各体育施設の利用者は、体育協会各部をはじめ、市民であることから、常に市民の声に耳を傾け、市民ニーズにあった施設の運営管理に努める。</p>																																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">H31に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> <th>H28決算</th> <th>H29決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td colspan="2">計 (単位:千円)</td> <td></td><td></td><td></td><td>—</td><td>—</td><td>—</td> </tr> </tbody> </table>		事務事業名		総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性	H28決算	H29決算見込	H28決算	H29決算見込	1								2								3								4								5								計 (単位:千円)					—	—	—	<p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
	事務事業名		総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				H31に向けた 投入資源の方向性																																																				
	H28決算	H29決算見込	H28決算	H29決算見込																																																										
1																																																														
2																																																														
3																																																														
4																																																														
5																																																														
計 (単位:千円)					—	—	—																																																							
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>																																																														
<p>部長の意見</p>	<p>各スポーツ施設については、指定管理者である施設管理公社との連携により、スムーズな管理運営がなされ、市民のスポーツの機会を提供することができている。 また、30年度から、総合体育館の改修工事が始まるが、利用者や関係団体等に事前周知を着実にを行い、円滑な工事に努める。また、他の施設についても、個別計画に位置づけし、今後は、公共施設等総合管理計画と整合性を図りながら、修繕等を実施していく。</p>																																																													

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	スポーツ施設の整備充実		総合計画コード	332	
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	120100
関連部課名					

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
	1 滝の根テニスコート施設改修事業	150	150	3	3	現状のまま
	2 総合体育館施設改修事業	150	33,390	3	3	拡大
	3 武道館施設改修事業	526	301	3	3	現状のまま
	4 溝沼子どもプール施設改修事業	826	902	3	3	現状のまま
	5 公園体育施設改修事業	301	76,987	3	3	現状のまま
	6 滝の根テニスコート管理運営事業	18,405	18,545	3	3	現状のまま
	7 総合体育館管理運営事業	45,422	46,652	3	3	現状のまま
	8 武道館管理運営事業	9,264	9,177	3	3	現状のまま
	9 溝沼子どもプール管理運営事業	32,519	30,750	3	3	現状のまま
	10 公園体育施設管理運営事業	80,669	75,760	3	3	現状のまま
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	188,232	292,614	—	—	—

施策を
構成する
事務事業の
次年度の
方向性

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	歴史や伝統の保護・活用			総合計画コード	341
部名	生涯学習部	主管課名	文化財課	主管課部課コード	120500
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	市民が地域の歴史や文化財について身近に接する機会が増え、郷土に対する愛着や文化財保護の理解と認識が深まっている。				
施策概要	市内の文化財に関する調査を行い、保護活用を促す。郷土芸能においては継承のための活動を支援していく。また博物館資料を活用して各種展示事業や教育普及事業において活用していく。				
個別計画関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度	~ H 34 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画後期基本計画		H 29 年度	~ H 38 年度
				H 年度	~ H 年度

2. 実施結果

H29年度の施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 各種媒体を通じて情報提供提供を行い、文化財に関する啓発を行った。 文化財保護関係団体への補助金交付をはじめ、溝沼獅子舞の広報活動や根岸野謡の披露の場など郷土芸能に対する保護・支援を行った。 埋蔵文化財の発掘調査等を実施、「北割・西原遺跡第4・5地点発掘調査報告書」を刊行した。また、市内5校目として第二小学校に学校教材として埋蔵文化財出土遺物の展示を行った。 指定文化財に関しては、二本松・広沢の池・柵塚古墳歴史広場・湧水代官水等の保存管理を行った。また重要文化財旧高橋家住宅の保存・管理及び公開、活用事業を実施した。 博物館では、市制施行50周年記念展を丸沼芸術の森と共催した。また第32回企画展「装飾壺からみた弥生時代の朝霞」、朝霞市市制施行50周年記念写真展「むかしのあさかはこんなだった」などを開催した。 					
H29年度の基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	来館者が安全に利用できる施設管理				
	子育てがしやすいまち	家族で参加できる体験学習の実施と学校団体の受入れの充実				
	つながりのある元気なまち	旧高橋家住宅及び柵塚古墳におけるボランティアとの協働				
	自然・環境に恵まれたまち	武蔵野の面影を活かした地域の文化財や博物館資料の保護・活用				
総コスト(事業費+人件費)	単位:千円(決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		71,854	74,308	—	—	—

指標名(説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 重要文化財旧高橋家住宅来園者数 (説明)重要文化財旧高橋家住宅を訪れた人や講座に参加した人の数	人	11,640	11,680	11,720	11,760	11,800
		14,161	13,753	—	—	—
② (説明)						

3. 施策の分析

<p>達成度 (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ○ D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ● B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ○ C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) 朝霞第二小学校に教材として土器を展示し、文化財の普及につとめた。 また、文化財の保護、管理については、旧高橋家住宅の隣地から地下水が湧き出るという事象があったが、貯留槽からの排水方法や敷地内の貯水状況などを推測するためのマニュアルを整備し、現在、このマニュアルに沿った管理がなされている。また、広沢の池に関しても、池の状況を注視し、隣地住民からの声がけに迅速するなどの対応がとれている。 博物館においては、学芸員の地域研究により、地域の歴史、文化を明らかにし、各種展示や講座講演会などを通して、市民の皆さんに情報の提供を行った。</p>
<p>必要性 (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>● A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ○ B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) 地方創生や東京オリンピック開催の動きのなかで、地域の歴史、文化にアイデンティティを求め、文化財などの歴史資源を観光資源として使用しようとする動きが活発化してきており、文化財に対する意識が高まってきている。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) 埋蔵文化財や博物館における資料の取扱いには、専門的な配慮が必要であり、専門職の配置確保が今後の課題になるものと考えられる。そうしたことをクリアにしたうえで、文化財の観光的な活用などが可能になっていくものと考えている。</p>

4. 今後の展開方針[部としての判断]

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p>				
	<p>(説明) 埋蔵文化財については試掘・発掘調査件数増加に担当できる職員の育成を始めとした事業実施の対策を講じる。 また、文化財の保護に関しては、引き続き、保護・管理を着実に進め、文化財の維持に努めていく。 博物館、文化財保護係ともにそれぞれ所蔵している資料の専門的な調査研究を行い、事業を通して、市民に情報提供できるよう、日々努力を続けていく必要がある。 今後のオリンピック・パラリンピック開催に向けた文化財を活用した事業実施を計画する必要がある。</p>				
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p>○ I 行政の関与(役割)を拡大 ● II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○ III 市民の関与(役割)を拡大</p>				
	<p>(説明) 終塚古墳歴史広場や重要文化財旧高橋家住宅、博物館で活動するボランティア団体との連携をはかり、協働しながら文化財の保護・活用および事業の実施を進めていく。</p>				
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<p>事務事業名</p>	<p>総コスト(事業費+人件費)</p>	<p>有効性 貢献度</p>	<p>優先性 緊急性</p>	<p>H31に向けた 投入資源の方向性</p>
<p>1</p>					
<p>2</p>					
<p>3</p>					
<p>4</p>					
<p>5</p>					
	<p>計 (単位:千円)</p>		<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p> <p>旧高橋家住宅の事業については、主屋で行う際は、一回あたりの参加人数が少なくなるので回数を増やしたらどうか。 小学校の土器展示については、預けるだけでなく、学校の交流も図られるようにしたほうがよい。 文化財の維持のために、高木などの剪定を行った場合は樹齢などの確認を行ったほうがよい。</p>				
<p>部長の意見</p>	<p>郷土学習は、生涯学習を推進する上で重要なキーワードである。ともすれば、机上での調べもので終わってしまう学習を、如何に味付けし魅力的なものにするかが問われている。 旧高橋家での体験学習や、オリンピック・パラリンピックのレガシーとしての文化事業など取り組むべき課題は多いが、引き続き文化財への意識の向上に努めていく。</p>				

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	歴史や伝統の保護・活用		総合計画コード	341
部名	生涯学習部	主管課名	文化財課	主管課部課コード 120500
関連部課名				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
		H28決算	H29決算見込			
	1 文化財保護普及事業	6,813	6,904	4	4	現状のまま
	2 指定文化財等保護管理事業	16,725	16,769	4	4	現状のまま
	3 埋蔵文化財調査保存事業	26,167	27,483	4	5	現状のまま
	4 埋蔵文化財センター管理事業	6,586	7,538	4	4	現状のまま
	5 旧高橋家住宅管理運営事業	15,563	15,614	4	4	現状のまま
	6 博物館運営事業	—	—	4	4	現状のまま
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	71,854	74,308	—	—	—

施策を
構成する
事務事業の
次年度の
方向性

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	芸術文化の振興			総合計画コード	342
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	120100
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	市民が芸術文化活動の成果を発表できる場と機会を得るとともに、より身近で優れた芸術文化に親しめる機会が提供されている。 各種団体やグループをネットワーク化し、市民の自主的な活動の充実と活性化をはかり、芸術文化に感心を持つ市民の活動が促進されている。				
施策概要	朝霞市文化祭等文化事業の開催、朝霞市文化協会の活動の支援。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度	～ H 34 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度	～ H 38 年度
				H 年度	～ H 年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の文化協会との連携事業は、市民会館の耐震工事の影響により、夏(市民芸能まつり)と秋(芸能のつどい)を一つにまとめた市民芸能フェスティバルとして実施した。 文化協会に補助金(文化協会補助金、文化祭補助金、市民芸能祭り補助金、芸術文化展補助金)を交付し、市民の芸術文化の振興に努めた。 芸術・文化の推進と伝承のために、朝霞市文化協会等市民や市民団体と協力しながら、講座やイベントを開催した。 市内丸沼芸術の森の協力を得て、夏休み親子陶芸教室(70人)を実施した。 					
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	事業実施の際に関連課と連携し、防災関係グッズを配付し、防災意識の啓発に努めた。				
	子育てがしやすいまち	子どもを対象にした芸術文化体験事業や親子の絆を深める目的で親子陶芸教室を実施した。				
	つながりのある元気なまち	市民との協同開催である文化事業(芸術文化展、市民芸能フェスティバル、秋の文化祭)を実施し、市民のコミュニティーの活性化に努めた。				
	自然・環境に恵まれたまち	市民芸能まつりに根岸野謡を招くなど、朝霞の伝統が後世に伝わるよう配慮した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		8,415	8,934	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 芸術文化展、芸能まつり、文化祭の入場者数	人	24,000	25,000	25,500	26,000	26,500
		18,631	14,534	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) ・文化協会との共催事業については、市民会館の改修工事の影響により開催時期をずらしたり、開催を見送った舞台発表があったことから集客が目標に達しなかった。しかしながら、実施内容については、文化協会各団体も創意工夫を凝らし、充実したものとなっている。 ・次世代を担う子どもが芸術文化に触れる機会を提供するため、親子陶芸教室や、文化協会や青少年相談員の協力で文化祭での体験教室を実施した。参加した子どもたちは、それぞれに発見や達成感をもった様子で、芸術文化を知り、理解するきっかけとなった。各種多様な芸術文化を学び、携わる市民の発表の場を提供することで、学習の成果の確認と参加者、来場者の交流や異世代間の絆を深めることができた。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) 伝統文化の伝承や芸術文化の振興は、暮らしや心の豊かさ、地域コミュニティの振興の面でも大切であり、個人や地域だけで行うことには限界がある。また、市と市民団体が協働で文化の振興にあたり、広く市民が参加し、文化に触れる事は、文化教育の格差をなくす側面も有するほか、異世代間の交流機会ともなり、コミュニティの活性化にもつながる。さらに、発表と文化交流の場を設けることで、市民の芸術文化に対する意識や創作意欲の高揚が計られる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・事業への参加人数が伸び悩んでいることから、今後どのように事業展開をするのかを文化協会と意見交換を行い、検討することが必要である。その際には、関係課とも協議し、イベント実施日をずらす等の工夫が必要である。 ・文化協会構成員の高齢化や後継者不足が顕著なことから、新たな会員確保の方策を文化協会と検討していく必要がある。

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) 青少年や子どもが参加できる事業を引き続き実施し、伝統文化の継承に努めるとともに、幅広い世代が交流し、芸術文化を身近に感じ親しみ、学ぶ機会の提供に努め、芸術文化の振興を図る。また、来場者数の向上のため、開催日の工夫やより積極的なPRに努めていきたい。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) 芸術文化事業は、文化協会との協働で、運営については文化協会に負うところが多いので、引き続き文化協会と連携を密にして朝霞市の文化芸術の振興に努めていくことが必要です。次年度も担当者が積極的に文化協会の理事会や役員会に出席し、文化協会とのコミュニケーションを取っていく。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
	1 芸術文化振興事業	8,415	8,943	3	3	現状のまま
	2					
	3					
	4					
	5					
	計 (単位:千円)	8,415	8,943	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	(外部評価委員会) 市の宝である青少年について、健全育成にも資するような、心豊かな教育をする市を目指し、才能を伸ばし、能力を磨くような取り組みを支援するなど、市の文化政策について再考する必要がある。					
部長の意見	文化祭や芸能フェスティバルなどを通して、市民の文化・芸術活動の推進が図られていることは評価できる。また、毎年、創意工夫しながらの充実した内容となっている。今後も、文化・芸術分野において次世代への継承が進むよう、関係団体との連携を図り、なお一層、活発的な活動が進められるよう努力していく。 また、市民がより高質な芸術文化に触れ、感性を高めていくことも、今後必要と考えている。そのため朝霞市芸術家協会や丸沼芸術の森の活動を支援したり、コラボレーションしていくことが大切である。					

施策評価シート(対象:H29年度実施施策)

H30年度評価

施策名	地域文化によるまちづくり			総合計画コード	343
部名	市民環境部	主管課名	地域づくり支援課	主管課部課コード	020400
関連部課名	市長公室(政策企画課)、市民環境部(産業振興課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	朝霞市民まつり「彩夏祭」などの地域イベントが市民の手で継続して開催され、地域文化が継承されており、郷土に対する愛着や誇りを持てるまちとなっている。				
施策概要	朝霞市民まつり「彩夏祭」の実施主体である朝霞市コミュニティ協議会に対し、朝霞市民まつり補助金を交付する。				
個別計画 関連計画	計画名称	計画期間	H	年度 ~ H	年度
			H	年度 ~ H	年度
			H	年度 ~ H	年度

2. 実施結果

H29年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ協議会に補助金を交付【補助金】運営費補助金405千円、市民まつり補助金22,900千円を補助。 ・よさこい鳴子踊りに参加する小・中学校に補助金を交付【補助金】市内中学校5校及び小学校1校に合計600千円(各校100千円が上限)、新規参加小学校に1,000千円を補助。 ・コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営。 ・朝霞市民まつり「彩夏祭」都市間交流ブースへの出展(瑞浪市、佐久市、東根市、須賀川市、高知県、越生町、西伊豆町) ・よさこい鳴子踊りを通じた交流としてチームを派遣(高知よこさい全国大会、ひがしね祭) 					
H29年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	市民が安心して地域文化に親しむことができるよう、イベント等の実施の際には安全に配慮した。				
	子育てがしやすいまち	本市の文化に親しみ、ふるさと意識の醸成を図り、次世代の文化の担い手を育成するため、市民まつりにおけるよさこい鳴子踊りに参加する市立中学校に補助金を交付した。				
	つながりのある元気なまち	市民まつりを主催する朝霞市コミュニティ協議会に市民まつり補助金を交付した。				
	自然・環境に恵まれたまち	本市の自然や環境を生かした朝霞独自の文化の継承・創出・育成に努めた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度(見込)	H30年度	H31年度	H32年度
		5,340	5,572	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績(見込)	実績	実績	実績
① 朝霞市民まつり「彩夏祭」 来場者数 (説明) 朝霞市民まつり「彩夏祭」に 来場した人数(3日間合計)	人	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000
		700,000	710,000	—	—	—
② (説明)						
				—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) 市民まつり「彩夏祭」は、平成26年度にシティ・セールス朝霞ブランドに認定されるなど、本市最大のイベント及び夏の風物詩として、地域文化と認められていると考える。また、市外からの参加者・来場者も多く、よさこい鳴子踊り参加チーム数は増加し続けている。 さらに、災害協定市のよさこい鳴子踊りチームが市民まつりに参加する一方、市内のチームを災害協定市に派遣し、同地で演舞を披露していただくなど、地域間・都市間交流を進める上で、市民まつり及びよさこい鳴子踊りは効果的な地域文化となっている。
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) 地域文化を育て、発信し、まちを盛り上げるためにも市民まつりの果たす役割は重要である。わがまち朝霞の文化として、市民まつりに対する市民の期待度は引き続き高いと考えられる一方、市民まつり以外の地域文化の発信力が弱いことから、黒目川花まつりなどのイベントを、地域活性化のために積極的に発信・支援する必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 人口の流出入が激しく、都心のベッドタウンである本市では、ともすれば地域意識が希薄になりがちで、かつ独自の文化が育ちににくい土壌である。今後のまちづくりにおいては、地域意識を形成し、市民が地元へ愛着と誇りを持つよう、共有できる地域独自の文化を創出し育てていくことが大きな課題となっている。

4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) 地域意識を育み、形成・継承していくために、市民まつりのよさこい鳴子踊りに地元の園児や小・中学生に多く参加していただき、一体感を得ることで地元への愛着や帰属意識が芽生えるよう支援していく。 都市間交流については、市民レベルでよさこい鳴子踊りを通しての交流などが行われており、今後も市民同士の交流を見守り、必要な支援を実施する。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input checked="" type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) 市民まつりは市民が主役のイベントであり、主催団体であるコミュニティ協議会や市民まつり実行委員会が主導し、市がサポートする体制は変わらないが、これまで市が担っていた役割について、市民が実施できるものは積極的に担当していただけるように役割分担を見直す。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H31に向けた 投入資源の方向性
	1 コミュニティ推進事業	—	—	5	5	拡大
	2 オリンピック・パラリンピック事業	—	—	5	5	拡大
	3 シティ・セールスイベント事業	—	—	5	5	現状のまま
	4 国際・都市間交流事業	5,340	5,572	5	5	拡大
	5					
	計 (単位:千円)	5,340	5,572	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	関連する第三者機関なし					
部長の意見	市民まつりなど地域イベント活性化のため、市としても必要な支援をしていく。					